

通し番号	3753
------	------

分類番号	12-15-14-04
------	-------------

(成果情報名) イチモンジセセリ幼虫の5齢期人工飼料育	
[要約] 市販の昆虫飼育用人工飼料「インセクタF- 」及び「インセクタLF」を用いてイチモンジセセリ幼虫の5齢期を飼育したところ、イネ生葉で育った幼虫に比較し経過日数及び経過の揃い、諸性状の面で劣ったものの羽化率は普通であり、今後の改善により5齢期における人工飼料育は可能と判断された。	
(実施機関・部名) 農業総合研究所・農業環境部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

イチモンジセセリの生理・生態的特性を解明するため、幼虫の人工飼料育技術を開発し、本虫の発生予察システムの構築に資する。

[成果の内容・特徴]

- 1 5齢期にイネ生葉育から人工飼料育に切り替わった幼虫は、「インセクタF- 」・「インセクタLF」とも、摂食開始当初1～2時間の食い渋りが見られた。
- 2 人工飼料育幼虫の乾物食下量は「F- 」・「LF」ともほぼ同量であったが、食下率は前者が高かった。
- 3 「F- 」と「LF」の飼育成績はそれぞれ一長一短はあるものの、ほぼ同等と思われた。
- 4 人工飼料を用いた飼育成績はいずれのそれも、経過日数、経過の揃い、成長量(蛹体重4眠体重)、羽化成虫の大きさなどの面でイネ生葉育に劣ったが、羽化率は悪くなかった。

[成果の活用面・留意点]

- 1 少量飼育の場合は給餌する人工飼料のブロックが小さく、餌が乾き易い。飼育中の餌の状態を良好に保つことができれば、人工飼料育の成績アップは可能と思われる。
- 2 1・2・3・4各齢及び1～4齢幼虫を人工飼料育すると、過剰脱皮をする幼虫が多く、普通の飼育成績は得られない。

[具体的データ]

表1 イチモンジセセリ5齢幼虫におけるチガヤ茎葉粉末含有人工飼料の食下量

処理区分	供 試 個体数	飼料給餌量 (wet, g)	食下量 (dry, g)	食下率 (%)
1 インセクタF -	10	19.1	1.47	27.7
2 インセクタLF	10	21.7	1.46	24.2
3 イネ生葉	10	-	-	-

注：人工飼料は、いずれの粉末にもチガヤの茎葉粉末を25%混入し、これに蒸留水を加えて飼料水分率を72.2%に調整後、100で40分間蒸煮したものをを用いた。

表2 イチモンジセセリ5齢期人工飼料育個体の諸性状

処理 区分	供 試 個体数	経過日数 (日)		死 亡 個体数 (死亡時期)	4 眠 体重 (対 1 個体)	蛹 体重 (同左)
		5 齢期	蛹期			
1	10	13.0 ~ 22.0	6.9 ~ 8.7	1(5齢)	0.17	0.24
2	10	11.6 ~ 19.8	6.0 ~ 8.2	2(5齢)	0.17	0.24
3	10	8.9 ~ 10.8	7.0 ~ 10.0	1(5齢)	0.13	0.35

羽 化		羽化成虫
成虫数		前翅長(mm)
雌	雄	(雌 + 雄)
6	3	17.01 ± 1.41
3	5	16.59 ± 1.28
5	4	18.07 ± 1.12

注：各区とも、1～4齢期はイネ生葉育(1～4齢飼育経過日数：12.3日)。

[資料名] 平成12年度神奈川農総研試験研究成績書(作物)

[研究課題名] 病虫害発生予察

[研究期間] 平成9年～12年

[研究者担当名] 原 聖樹